

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	売掛金
前払保険料	建物	土地	未払金
買掛金	資本金	社会保険料預り金	所得税預り金
現金過不足	雑益	売上	受取家賃
租税公課	通信費	仕入	発送費
給料	保険料	雑損	修繕費

- 得意先糸満商店に商品¥1,500,000を掛け売りしていたが、そのうち¥200,000について品違いにより返品されてきたため、掛代金と相殺した。なお、返品された当店負担の送料¥8,800を現金で支払っている。
- 現金の実際有高が帳簿残高より¥30,000多かったので現金過不足として処理していたが、決算日において、家賃の受取額¥36,000と、切手代¥3,600の記入漏れであることが判明した。残額は原因不明であったため、雑益または雑損として処理する。
- 本日、給料日を迎え、全従業員に対して社会保険料¥499,860、所得税の源泉徴収税額¥66,250を控除した残額の¥1,920,390を当社の普通預金口座から支払った。
- 前期の決算において保険料の前払額¥50,000を計上していたので、本日(当期首)、再振替仕訳を行った。
- 本社建物の改築と定期修繕を行い、代金¥18,000,000を当座預金口座から支払った。うち建物の資産価値を高める支出額(資本的支出)は支払額の40%相当額であり、残額は建物の現状を維持するための支出額(収益的支出)である。

第2問 (10点)

次の[資料Ⅰ]固定資産台帳、[資料Ⅱ]建物勘定および建物減価償却累計額勘定の①～⑤に当てはまる金額を答えなさい。なお、各種固定資産は残存価額をゼロとして定額法により計算しており、会計期間は2019年1月1日から2019年12月31日までの1年間である。

[資料Ⅰ] 固定資産台帳

取得年月日	名称等	期末数量	耐用年数	期首(期中取得)取得原価	期首減価償却累計額	差引期首(期中取得)帳簿価額	当期減価償却費
建物							
2012年10月1日	本社	1	50年	40,000,000	5,000,000	35,000,000	800,000
2019年5月1日	工場	1	31年	46,500,000	0	46,500,000	()
備品							
2016年4月1日	備品Z	1	5年	3,600,000	1,980,000	1,620,000	(①)
2019年7月1日	備品Y	4	6年	2,400,000	0	2,400,000	(②)
小計				92,500,000	6,980,000	85,520,000	()

[資料Ⅱ] 建物勘定および建物減価償却累計額勘定

建物		建物減価償却累計額	
1/1 前期繰越 (③)	12/31 次期繰越 ()	12/31 次期繰越 (④)	1/1 前期繰越 ()
5/1 未払金 ()			12/31 減価償却費 (⑤)
()	()	()	()

第 3 問 (30 点)

答案用紙の 2020 年 4 月 30 日の合計試算表と [2020 年 5 月中の取引] を合算して、答案用紙の 5 月末の合計試算表を作成しなさい。

[2020 年 5 月中の取引]

- 1 日 商品 ¥230,000 を販売し、代金は掛けとした。
- 2 日 商品 ¥660,000 を購入し、代金は掛けとした。なお、送料 ¥11,000 は現金で支払った。
- 4 日 売掛金 ¥200,000 について、電子記録債権の発生記録を行ったとの連絡を受けた。
- 7 日 熊本銀行の当座預金口座から肥後銀行の当座預金口座に ¥500,000 を送金した。
- 8 日 所得税の源泉徴収税額 ¥9,600 を熊本銀行の当座預金口座から納付した。
- 10 日 仮店舗出店のため手数料 ¥55,000 と広告宣伝費 ¥13,200 を普通預金口座から振り込んだ。
- 12 日 買掛金 ¥300,000 について、電子記録債務の発生記録を行った。
- 13 日 商品 ¥130,000 を販売し、代金は得意先振出の小切手で受け取った。
- 15 日 商品 ¥200,000 を購入し、代金は熊本銀行の小切手を振り出して支払った。
- 17 日 仮店舗でのつり銭を用意するため、現金を銀行で両替し、手数料として ¥400 を現金で支払った。
- 18 日 仮店舗で商品 ¥300,000 を販売し、代金は現金で受け取った。
- 19 日 得意先から掛代金 ¥300,000 が熊本銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 20 日 従業員の給料 ¥550,000 から所得税の源泉徴収税額 ¥9,600 および従業員貸付金の元本返済額 ¥100,000 を差し引いた残額を熊本銀行の当座預金口座から振り込んだ。
- 22 日 商品 ¥500,000 を販売し、代金は掛けとした。
- 25 日 電子記録債権 ¥100,000 が決済され、肥後銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 26 日 支払手形 ¥150,000 が決済され、熊本銀行の当座預金口座から引き落された。
- 27 日 水道光熱費 ¥33,000 および通信費 ¥22,000 が熊本銀行の当座預金口座から引き落された。
- 28 日 定時株主総会を開催し、繰越利益剰余金を次のとおり処分することが承認された。なお、株主配当金はただちに普通預金口座から振り込んだ。
株主配当金：¥500,000 利益準備金の積立て：¥50,000
- 30 日 電子記録債務のうち ¥200,000 が決済され、肥後銀行の当座預金口座から引き落された。
- 31 日 仕入先への掛代金 ¥80,000 を熊本銀行の当座預金口座から振り込んだ。

第 4 問 (10 点)

次の阪本商事株式会社における各取引の伝票記入について、空欄(ア)～(オ)にあてはまる適切な勘定科目または金額を答えなさい。なお、使用しない伝票の解答欄には「記入なし」と答えること。また、商品売買取引の処理は 3 分法によること。

- (1) 得意先山梨商店に対して商品 ¥990,000 を販売し、代金のうち ¥500,000 は現金で受け取り、残額は掛けとした。

入金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	(ア)	()	(イ)	()	(イ)

- (2) 営業用車両 ¥3,300,000 を購入し、代金は翌月末に支払うことにしている。なお、営業用車両の購入に要する諸費用 ¥55,000 は現金で支払っている。

出金伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
(ウ)	()	車両	(エ)	(オ)	(エ)

第 5 問 (30 点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの 1 年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

2020 年 3 月 31 日

借方	勘定科目	貸方
36,800	現金	
1,256,000	当座預金	
998,000	売掛金	
400,000	電子記録債権	
35,000	繰越商品	
396,000	仮払消費税	
960,000	備品	
2,000,000	土地	
	買掛金	150,000
	仮受消費税	880,000
	貸倒引当金	12,000
	備品減価償却累計額	880,000
	資本金	1,000,000
	繰越利益剰余金	641,800
	売上	8,850,000
	受取地代	234,000
3,280,000	仕入	
2,320,000	給料	
242,000	法定福利費	
520,000	支払家賃	
112,000	水道光熱費	
92,000	旅費交通費	
12,647,800		12,647,800

(2) 決算整理事項等

1. 売掛代金の当座預金口座への入金を誤って借方・貸方ともに ¥24,000 と記帳していたが、正しくは ¥42,000 であったため、本日これを修正する。
2. 期末商品棚卸高の売価は ¥180,000、原価は ¥56,000 である。
3. 売掛金および電子記録債権の残高に対して 1% の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
4. 備品については、定額法（耐用年数 6 年、残存価額ゼロ）により償却をしてきたが、今年度の途中において耐用年数が到来し、来年度以降も使用するため、備忘価額 1 円を残した金額を今年度の減価償却費として計上する。
5. 水道光熱費の決算日までの未払額が ¥1,800 ある。
6. 社会保険料の会社負担分 ¥15,000 を未払い計上する。
7. 消費税の処理（税抜方式）を行う。
8. 決算整理前残高試算表の受取地代は翌年度の 4 月分を含む 13 か月分が計上されているため、月割りにより適切な処理を行う。
9. 決算整理前残高試算表の支払家賃は翌年度の 4 月分を含む 13 か月分が計上されているため、月割りにより適切な処理を行う。